

財務ハイライト

(百万円)

	連結		個別	
	H20年3月期 (第10期)	H19年3月期 (第9期)	H20年3月期 (第10期)	H19年3月期 (第9期)
売上高	1,007	960	740	805
営業利益(損失)	△236	△95	△114	3
経常利益(損失)	△243	△98	△111	9
当期純損失	422	360	386	243
一株あたり当期純損失(円)	13,165.51	11,377.55	12,049.40	7,670.25
総資産	1,463	1,922	1,609	2,044
純資産	1,347	1,771	1,505	1,892
一株あたり純資産(円)	41,576.43	54,741.94	46,898.22	58,947.61
営業キャッシュ・フロー	△123	△115	—	—
投資キャッシュ・フロー	△85	△154	—	—
財務キャッシュ・フロー	—	1	—	—
現金・現金同等物 期末残高	783	991	—	—

- ◆ 個別キャッシュ・フローは記載しておりません。
- ◆ 連結営業損失は、売上未達やのれん償却により、236百万円となりました。
- ◆ 有価証券等資産の評価損等の特別損失184百万円等により、連結当期純損失は422百万円となりました。
- ◆ 個別においても、減収・減益により、営業赤字となりました。
- ◆ 借入金、社債はなく、無借金経営を継続しております。
- ◆ 自己資本比率は91.2%です。
- ◆ 上記の数値は、平成20年3月31日時点におけるものです。

会社概要 (平成20年3月31日現在)

商号	株式会社ビーマップ
所在地	東京都文京区白山5丁目1番3号
設立	平成10年9月4日
資本金	1,854,247千円
証券取引所	大阪証券取引所 ヘラクレス グロース
従業員数	47名
事業内容	コンテンツインフラ及びそれを活用した コンテンツの企画・開発・運営・販売から構成さ れるモバイルシステムインテグレーション事業

役員 (平成20年6月25日現在)

代表取締役社長	浅賀英雄
取締役会長	杉野文則
取締役	籠浦光*1、柴本猛*1
監査役	樋口和光*2、平野彰*2、小林義典*2

*1 会社法第2条第15号に規定する社外取締役

*2 会社法第2条第16号に規定する社外監査役

関係会社	株式会社フレームワークスタジオ 株式会社Be plus フォーマイスターズ・システムコンサルティング 株式会社 株式会社インフォエックス
関連会社	株式会社エム・データ

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
剰余金の配当を行う株主の確定日	3月31日
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱所	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 電話0120(288)324
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告方法	当社のホームページに掲載しております。 http://www.bemap.co.jp/ (但し、止むを得ない場合は日本経済新聞)

第10期 事業報告書

平成19年4月1日 ▶ 平成20年3月31日

株主の皆様へ（浅賀社長メッセージ）

このたび、代表取締役社長に就任いたしました浅賀英雄でございます。

株主の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。ここに、第10期（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）事業報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

就任にあたり、株主の皆様に対する私の当面の任務は「早期の業績回復」のひとことに尽きると考えております。

上場以来、当社は株主の皆様のご期待に応えるべく、業容の拡大に努めてまいりましたが、事業の拡大方針と管理体制の整備、運用において乖離が発生し、結果として損失を招いてまいりました。その反省をふまえ、携帯電話などのモバイル端末による移動者マーケティングにおいて、「鉄道・通信・放送のような既存の社会インフラと、革新を続ける情報技術（IT）との橋渡しをする。」という当社の設立以来の存在意義に立ち返り、事業の選択と集中に努めるとともに、事業の推進、管理体制を整えて業績の早期回復を行う所存です。

株主の皆様のご期待に応えられるよう、今後とも全力で事業に取り組みまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

平成20年6月
代表取締役社長 浅賀 英雄



当期（第10期、平成20年3月期）の主な取組みと実績

会社設立以来、ビーマップは交通機関を利用する人々の物理的な動線に着目し、サービスを提供するためのインフラを提供してまいりました。

そうした中で、当期は、既存の事業である交通、無線LAN、映像配信等の既存事業が堅実に進展する一方、メタデータ配信事業などの新しい事業についても、新しい収益の柱に育つ目処が立つなど明るい兆しも見えてまいりました。しかしながら、既存事業の位置情報に関する事業や新規事業の一部で計画との大きな乖離が生じ、営業損失を計上する結果となりました。

一方で、赤字体質からの脱却を図るため、取締役員数・報酬の見直し、事業の選択と集中、組織・人員の見直し、有価証券・その他資産の見直しなどのリストラに着手いたしました。期中にその成果を事業成績に反映させるに至りませんでした。

■ 平成20年3月期の主要アクション

6月:「テレビメタデータWebサービス」の提供開始

7月:「プライバシーマーク」取得

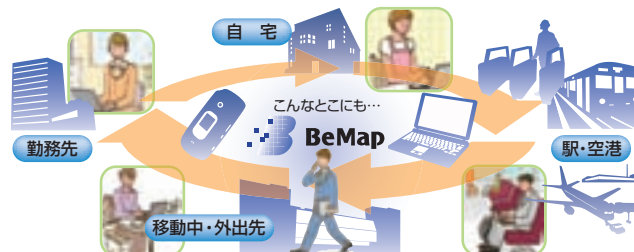
8月: タレント関連物販事業「スターセレクション」開始

10月: モニタリング倶楽部「陳列ASP」サービス開始

3月:「Yahoo!ファンクラブ」とのビジネス連携開始

■ ビーマップの事業ドメイン

移動者マーケティングにおいて、社会インフラと情報端末を結びつける仕組み・サービスを提供する



次期（第11期、平成21年3月期）のアクションプラン

事業面におきましては、引き続き、既存事業のうち収益力の高い分野に注力しながら進めていくとともに、重点投資分野であるメタデータ配信事業をより高収益な事業に育て上げていく所存です。また、子会社等の一部においても受注見込が好調であり、業績の回復が見込まれております。

また、前期より進めてきたリストラ、特にグループ全体をととした事業の選択と集中を実施してまいります。これに伴い、いくつかの事業・プロジェクトにつきましては撤退という選択肢も視野に入れております。また、事業推進・管理体制を強化し、より高収益のビジネスにシフトしていくことで、事業目標の達成を図ってまいります。

■ 物理的動線を意識した事業戦略

